

(イ) 供用時の航空機運航時に起こる衝突

ヤエヤマコキクガシラコウモリ及びカグラコウモリが採餌活動を行う場所は樹林地内や林縁であり(庫本, 1972)、開けた場所はあまり利用しない(前田・橋本, 2002)。滑走路のような開けた空間を採餌場所としてあまり利用しないと考えられ、航空機との衝突の可能性は極めて低い。ユビナガコウモリは比較的高い高度を飛翔することが知られているが(庫本, 1972)、採餌場所が樹林の上空(庫本, 1972; 前田・橋本, 2002)とされることから、航空機との衝突の可能性は極めて低いと予測される。

(ウ) 飛行場の施設の利用(照明による生息状況の変化)

a) 小型コウモリ類の出洞時刻あるいは出洞時の行動の変化

ヤエヤマコキクガシラコウモリと近縁であるコキクガシラコウモリ *R. cornutus* において、出洞時刻と照度に相関がみられるという報告(庫本, 1972)があり、また他の種についても同様の報告がなされている(船越, 1991; 斉藤, 2000)。予定地付近の5洞窟においても、洞口付近が暗くなる日没後に、小型コウモリ類の出洞が開始される。このことから、一般的には洞窟の入口付近に照明の光が届く場合、日没時刻になっても、小型コウモリ類の出洞が開始されないか、開始時間が遅くなる影響があると考えられる。しかしながら、A洞窟及びD洞窟については洞口周辺の樹林が伐採されないこと、照明施設は直接洞口を照らすものはないことから、洞口付近の夜間の明るさは変化しないと予測される。以上のことから、小型コウモリ類の出洞時刻や出洞時の行動は変化しないと予測される。

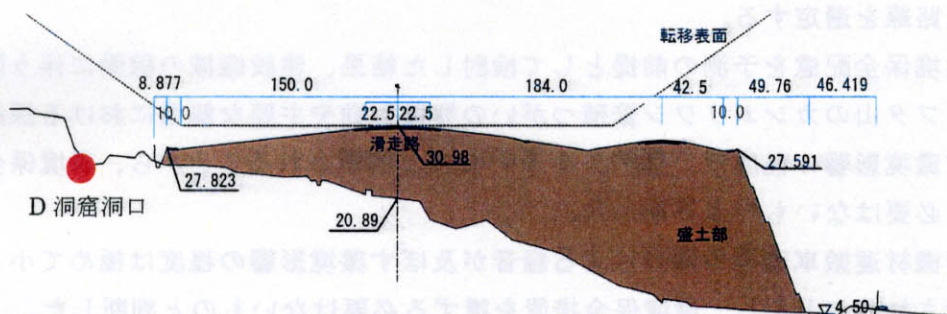


図-6.12.1.2(42) 滑走路とD洞窟の横断位置関係

b) 採餌行動の変化

ヤエヤマコキクガシラコウモリ及びカグラコウモリが飛翔する場所は樹林地内や林縁が多い(前田・橋本, 2002)ことから、樹林がない滑走路付近では小型コウモリ類の採餌行動はないものと予測される。樹林の近くに照明施設がある場合には、誘引された昆虫類を捕食するためにヤエヤマコキクガシラコウモリ及びカグラコウモリが集まるおそれがある。しかしながら、駐車場等の外灯は誘虫性の低いものを使用するなどの事業の計画検討に当たって講じた環境保全配慮により、小型コウモリ類が集まるおそれは小さく、採餌行動に変化はないものと予測される。